



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2012年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒーアワ : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 益田デ一口 (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫■

「君原健二」

僕は『サライ』の愛読者である。古本屋で気に入ったものがある時だけの購読者だが、今回はマラソンの覇者、君原健二の特集だ。彼のコメントが光る。彼は東京、メキシコ、ミュンヘンの各オリンピックに出場、すべて8位以内の大記録で、今も週3日1時間は走る。北九州市立大学特認教授で七十一歳だ。

(質問) メキシコ・オリンピックでのことをお話し下さい。
 「スタートラインに立った時、心に誓いました。今日は円谷君のために走ろう(東京オリンピック銅メダルリストだったが、持病の腰痛悪化で以前の走行ができず自殺)。ところが、途中から猛烈な腹痛に襲われたのです。ゴールまで十キロ以上、酸素が薄いせいで意識朦朧。それでも何とか2位で競技場に辿り着いた。その瞬間、円谷君のことが脳裏をよぎったんです。後ろを振り向くと、後続選手がすぐそこに迫っているではありませんか。東京五輪の円谷君とまるで同じ場面です。抜かれてなるものか! がむしやらにゴールへと駆け抜けました。後続選手とはわずかに十秒差の逃げ切りでした。私は普段、後ろを振り向くことなんてないんですよ。天国から円谷君の声が耳に響いたのか、お陰で円谷君が欲しがっていた銅より上のメダルを獲得ことができました。高橋コーチは、涙声でねぎらいの言葉をかけてくれました。“ありがとう”と。自分の肉体は作品と考えていたのですが、これは自分ひとりでは絶対にできない。コーチ、仲間、支えてくれた家族。皆さんの力を合わせた共同作業だったのです。

(質問) 現役三十五回のレースで棄権がありませんね。

「よくそう言っていたのですが、大したことないです。自分の力を発揮できずに終わった駄作のレースもありますから。完走するコツですが、例えばゴールまであと十キロもある、もうダメだと思った時、とりあえずもう1キロだけ走ろうと考える。それが辛くなると、あそここの電柱まで行ってみよう。そこまで行けたら次の電柱まで。そんなふうには、ゴールまでの目標を小刻みにして完走できたレースがいくつもあります。充実した人生とは、夢や希望を持ち続けることではないでしょうか。生きている間はゴールはない。ゴール無限です」

詩篇に「あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です」(百十九・105)とある。足のともしびは足元を照らすという意味で、何キロも先を照らすということではない。目の前の電柱までなのだ。今辛くつても、そこまでだったらガンバレルのではなからうか。無限のゴールも、今は目の前の電柱だ!

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は一九七七年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は一九二一年に創立され、現在は日英両語合わせますと二千名を越える会員になります。

私たちの教会は一八世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、三世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白といたします。

